

平成 30 年度 未来をつくろう 市民と市長の地域懇談会

報告書



日時 平成 30 年 10 月 2 (火) 午後 6 時 30 分～8 時 20 分

場所 末広コミュニティーセンター

参加者数 41 人

市側出席者	市長	北 猛俊
	副市長	石井 隆
	教育長	近内 栄一
	総務部長	稲葉 武則
	市民生活部長	山下 俊明
	保健福祉部長	若杉 勝博
	経済部長	後藤 正紀
	建設水道部長	吉田 育夫
	教育部長	亀淵 雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上 勝義
	企画振興課長	西野 成紀
	財政課主幹	高田 敦子

【市長 開会のあいさつ】

今日は、末広コミセンにおきまして、末広町、弥生町、若松町のみなさんにお集まりをいただきまして、地域懇談会を開催させていただきます。大勢の方にお集まりをいただきましたことにお礼を申し上げます。市役所の職員の方々も大勢いらっしゃいます。限られた時間ですがよろしく願いいたします。

10月に入りまして、気温が下がってきました。市長に就任させていただいてから4カ月が経ちますが、定例議会が2回と市長室にきていただいて意見交換をさせていただく市長室トークを2回開催させていただきました。その他、市民のみなさんからいろんなご意見をいただきながら市政運営に務めているところです。就任当初から、市民のみなさんが健康で幸せを感じられる安全安心なまちづくりに努めさせていただいていますが、現在、富良野市が当面解決をしなければならない課題としまして「JRの問題」「市庁舎の問題」「医療の関係」が大きな課題となっています。今回はJRと市庁舎の関係につきまして、みなさんからご意見をいただきたいと思っております。

JRの関係では、国は地方自治体への負担を求めています。市庁舎の関係でも大きな負担をとまいません。しかし、そのなかで市民の満足度の高い事業にしていくためにも、JRがどのようなかたちで市民にとって利便性が良いものになるのか、市庁舎においても、どのような庁舎づくりを市民のみなさんが望んでいるのか。市民にサービスを提供する拠点が市庁舎です。みなさんの意見を伺いながら市庁舎づくりをすすめていくことが重要だと思っています。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただいて十分に満足の高い計画にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

1. 鉄路のあり方

【ご意見】

- JRを存続するためにはある程度の支援をしていくとあるが、どの程度の金額なのか。また、沿線の市町村も協力し合って負担するのか。
- JR貨物は富良野の農業を支えている。ある程度の支援をしてでも鉄道を残してもらいたい。
- 負担をする金額が大きすぎる。どうやっても鉄道は維持できないのではないかと。JR北海道が倒産しないように、いろいろ考えているが、本当に負担をする能力が北海道や他の自治体にあるのか。
- 国が国鉄から民営化したときの国の責任が大きい。国の負担が400億円では足りない。北海道は広大な面積のなかで過疎地でもある。道路がないところや積雪寒冷など、いろいろな特別な事情がある。もっと国に働きかけて欲しい。
- JRの利用者が少なくなったのは駅舎にも問題がある。高齢者や障がい者はJRを利用することができない。ポップブリッジが利用できないのに疑問を感じる。高齢者は運転免許証を返納しなければならない。何かあるときはJRを利用することになる。他市町村の駅舎はエレベーターがあって利用しやすい。

【市の回答・対応方針】

- ある程度の支援の規模がどの程度なのかということは、まだわかっていません。国から示されている資料から推測すると、国の支援が2年間で総額400億円台といわれていますが、金額は流動的です。鉄道施設や車両の設備投資、修繕などに地方自治体と国は「同じくらいの水準」というなかで考えられています。概ね、試算の中では何千万円の単位で支援の額が国や道から示されてくると推計しています。そして、負担をする市町村ですが、単独で維持するのが困難な線区として示されて

いる8線区に関係する市町村は、道内179市町村のうち50市町村です。しかし、北海道の鉄道はネットワークでつながっているため、道内の他の市町村も負担をするべきではないか。札幌市も負担するべきではないか、という意見もあり、国や道で検討しているところです。

○そもそもこの問題は、JR北海道の自助努力と、30年前の国鉄分割民営化の国の責任を問うべきだという考えを富良野市としては基本にしています。国鉄からJR北海道になるときに、毎年480億円の赤字が生じるだろうといわれていましたが、国はJR北海道に経営安定基金6,822億円を積み、その運用益で赤字を補てんしていきようとしていました。しかし、低金利のなかでそうしたことが崩れたということが大きな問題です。市長は、昨年、議長という立場で国に直接行って衆参あわせて30人の国会議員に対して、直接抜本的な国の支援を要請しています。また、大臣にも直接会って要請をしています。市長就任後では、国交省に直接行き、副大臣に会って直接要請をしていますし、鉄道局にも直接行って要請をしています。これは富良野市だけではなく道内の自治体や知事も含めて要請活動を行っているところです。そうした成果もあり、国が400億円の支援をすることを取り付けることができました。しかし、国は地方自治体への負担を求めてきています。国交省と財務省の折衝のなかでは、九州や四国も地方自治体が負担をして、上下分離のなかでやっている状況もあり、北海道だけを特別扱いできないということで、地方に負担が求められました。今後、地方とJR、国が一体となり、どのように利用促進を図り、経営を改善していくのかということが求められているというのが現状です。

○鉄道は、もともとは石炭や木材を輸送するために国策のなかで北海道に鉄道がひかれた経緯があります。広域分散型の北海道の鉄道の持つ必要性、日本全体の食料基地としての北海道の農作物の輸送、国が2020年に4千万人の訪日外国人を目指すなかでの観光需要など、鉄道の必要性について国に強く訴えているところです。

○30年前の国鉄分割民営化のときに、JR九州、JR四国、JR北海道のすべてが赤字になるといわれ、それぞれ基金が投入されました。そのうち、JR九州は、経営が改善し、国鉄輸送だけではなくホテルなどの不動産収入があり、すでに上場しています。そうした実情から北海道だけが特別扱いできないといわれています。国会議員の方々も、法律を通したり予算を確保するためには、全国の国会議員のみなさんに賛同を得なければならないこともあり、北海道のみなさんも頑張ってもらいたいとエールをいただいています。

○JRへの自治体の負担ですが、これまでの国や道との話し合いのなかでは、国が全責任のなかで維持して欲しいという要請をしてきました。そのなかで、国が全額を負担してJR北海道を維持していくことで、国の負担が400億円という一定の答えがでてきました。しかし、北海道や市町村が負担の方向は、まだ定まっていません。JR北海道の赤字を負担するのか、出資をするかたちで金を積むのか。そうした方法も決まっていません。今後、そうしたことが決まってきたときには、市としては負担をしてでもJRを存続させたいと考えています。市の負担の考え方については、地方財政措置ということで地方交付税のかたちで地方自治体の負担を国が補てんをするような国の負担の仕方についても要求をしている状況です。

2. 新庁舎建設について

【ご意見】

○庁舎が老朽化していることは知っていたが、新聞で建設することを知り、はじめは唐突に感じたが、今回の説明でこれまでに内部で十分検討し、そのためにお金も積んできたことや、国の支援もあるということで十分納得できる。このまま前に進めてほしい。市議会議員の中には、反対ではないと

言いながら、逆にあおっている感じがする。市議会議員も市民の代表として議会で決まったことは、やる方向で進めてほしい。

- 市庁舎建設は大きな事業なので、小さい経費が大きな経費になる。市職員のみなさんも経費の節減ということで残業時間の抑制などにも取り組んで欲しい。
- 償還金 60 億円を 30 年間で返すということだが、工事費 58 億円がどのように算出されたのか。30 年後の人口は何人になっているのか。それが妥当な金額なのか教えて欲しい。
- 市民の借金なので効率的で効果的な経費削減に努めた建設計画でつくってもらいたい。建替えには賛成。
- 市庁舎が建ったあとに、その他の施設の利用を考えていくということか。生涯学習センターにある博物館の展示施設はどうなるのか。
- いつ大きな地震がくるのかわからない。現在の庁舎で危険を感じながらでは職員は良い仕事ができないので進めて欲しい。

【市の回答・対応方針】

- 市庁舎の規模は、現在の市庁舎と文化会館を合わせた面積を想定し 9,800 m²としています。他市町村で建設している市庁舎の 1 m²あたりの平均単価 59 万円を乗じて算出したのが 58 億円です。現在、市民検討委員会や市民のみなさんの意見を聞きながら規模を検討し、将来的な人口減少を想定しながら基本計画をつくり、基本設計のなかで本当の庁舎の規模を確定しながら、およその金額を明らかにし、改めて周知をしていきたいと思っています。
- その他の施設の将来的な方向性については、市庁舎と同時進行で進めるのではなく、市庁舎ができた後に、各施設で生じた空きスペースをみて、利活用方法を検討させていただきます。例えば、図書館の 3 階にある学校教育課や子ども未来課、保健センターの 2 階にある高齢者福祉課や福祉課が市役所に移転した場合、それらの施設の空きスペースをみてから利活用の方法を検討します。

3. 防災体制について

【ご意見】

- 地震のときに食事や寝具もありませんが来てくださると広報車が回ってきたが、高齢の人は、電気が使えないなか食事の用意もできないし、寝具を持っていくこともできない。もう少し思いやりがあっても良いのではないか。
- 末広町は空知川に近いので洪水が怖いところ。どこに避難をしたら良いのか不安になる。上富良野町や中富良野町に比べて富良野市は各戸に防災の設備がない。広報車が回っても寝ているときは聞こえない。テレビで川の危険水位の情報が流れて不安になる。市として全体に周知できるような仕組みを考えて欲しい。
- 市の備蓄はどのくらいあるのか。
- 金山ダムや空知川の堤防が決壊したときの洪水で、どこに避難したらよいか。

【市の回答・対応方針】

- ふれあいセンターを自主避難所ということで対応しました。今回は、災害があつてその方の生活を守るための避難所ではなく、電気がないところで過ごすことに不安を感じる方がいれば一時的にきてくださいという案内を行いました。
- 毛布の備蓄は 400 から 500 はいつでも使える状態になっています。
- 空知川が 100 年に 1 度の水害を想定した防災ハザードマップを各戸に配っていますが、末広町や弥生町については、まずは文化会館や富良野高校に逃げてくださいと案内しています。その中で、みなさんが集まったところに備蓄を持ち込んで対応したいと思っています。浸水の状況によって、富良野高校か文化会館に逃げていただきたいと思っています。
- 危険が迫っているときは、垂直避難ということで自宅の 2 階に避難することが考えられます。その後で、周辺の様子がわかってきてから一次避難所に集まっていただきます。
- 市の対応については、まだまだ改善していきたいと考えています。今後の災害に備えて検討していきたいと思ひます。

4. 除雪について

【ご意見】

- 自分で自宅の車の周りを広く除雪しているが、そこに歩道の除雪車が雪を置いていく。業者に頼んでも聞いてもらえない。町内会を通じて要望するのか。
- 街路樹があるが剪定もなにもされずに腐っていく。除雪も含めて全て業者に任せることができないのか。除雪業者はとても親切に対応してくれるが、職員は対応が厳しい。
- 排雪のときの誘導員が不親切で通行する車がきても対応しない

【市の回答・対応方針】

- 除雪には優しい気持ち大切です。各家庭でいろいろな事情があり、最大限そうした事情を尊重したいと思ひますが、どうしても毎回排雪することができずに雪を堆積しなければなりません。その堆雪の仕方も町内会によって様々です。また、除雪は最大 10cm 降ると行います。路線によっては遅くなることもあります。オペレーターの経験が不足していたり、間口除雪をしていて遅れることもあります。最大限の努力をして対応していますが、市民のみなさんの協力もなければ、効率良くできないということもありますのでご協力をお願いしたいと思ひます。
- オペレーターは毎年変わることもありトラブルも多くなっています。職員や業者には丁寧な対応を求めています。対応の不備があればご連絡をいただきたいと思ひます。
- 町内会全体の要望は町内会長を通じて連絡をいただきたいと思ひますが、個々の要望は、都市施設課に電話をいただければ最大限対応したいと思ひます。必ずしも全て対応できるとは限りませんのでご理解をお願いします。

○除雪はすべて委託で行っています。直営で出るときは苦情があったときに緊急で除雪を行うときだけです。職員に対する問題は、教育をしていきます。業者に対しても指導をしていきたいと思いません。

5. 町内会について

【ご意見】

○毎年、民間会社の電話帳が町内会長に届き各戸に配布するよう頼まれるが、重たくて配って歩くのが大変。民間会社が町内会を使うのは止めて欲しい。

【市の回答・対応方針】

○市としては、町内会を通して電話帳を配布することに許可しているわけではないので、電話帳を配布している民間会社に直接電話をしてみます。

【市長 閉会のあいさつ】

約2時間と長時間になりましたが、全体のご意見を伺うまでには至りませんでした。この地域懇談会を開催させていただいた最後に申し上げていることがありますが、今日のこの場でみなさんからのご意見をいただくことが終わりではありません。市長室トークというのがありますし、時間があれば庁舎にきていただいて、私や担当者にまちづくりに対するご意見をいただければと思います。

いずれにしても、今後のまちづくりは、住んでいる方々と行政とが、支え合い助け合いのまちづくりが主流になってくると思います。地域の課題としまして、町内会や除雪の関係でご意見をいただきましたが、一方だけがやるということだけではなく、双方が助け合いながらより良い生活環境づくりに努めていくような行政に取り組んでいきたいと思えます。この後も、みなさんにはご協力をいただくようになりますが、よろしく願い申し上げます。

今日の地域懇談会では大変貴重なご意見をいただき、長時間のお付き合いをいただいたことにお礼を申し上げます。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
30-39 歳以上	女性	地域の問題を話し合うことができ良かったです。
50-59 歳	女性	現時点では、どちらのテーマも金額の議論ではなく事業の方向性を理解してもらうことが必要だと感じた。JRは、通学で旭川まで通うために重要な足となっているため、混み合う時間帯にもっと増やしてもらいたい。
60-69 歳	男性	9月6日の停電で市広報車が布団も食事ありませんと放送していたそうですが、準備ができないのであれば布団と食事のことは話さなくても良かったのではと思います。
70 歳以上	男性	説明時間が45分間と短く、あまり理解できなかった。